

「運動会」で荒馬をやるということ

林朗子（枚方市立桜丘小）

1. 運動会は「民舞」でしょ！

例年 1 学期が終盤になってくると、「今年の運動会どうする？」という声が職員室のあちこちで聞こえるようになる。そして、続けて「〇〇〇でいいんじゃないですか？」という結構適当な返答。どこの学校でも同じような様子だと思うのだが、私は毎回違和感を覚える。やはり運動会も学校での教育活動の一環なのだから、子ども達に教育的な何かを残さないといけないのではないか……。というのはきれいな建前で、実のところは、せっかく 1 ヶ月近くも運動会一色になるのに、はいそれで終わり、ではもったいない！という貧乏根性なのだが……。

ということで、運動会の子どもに何かを残すためには、取って付けた流行りのダンスではなく、歴史に裏付けされた民舞が良いと実感している。ただ、「民舞」を知らない若い教員が増えてきている昨今（10 歩譲って、「南中ソーラン」は許せても、「島唄」も民舞と知っている若者には、どうしても「ちょっと、ちょっと……」と声をかけてしまう自分がある）、運動会が単なるお遊戯の発表会化してしまうのは、当然の流れなのかもしれない。ならば、多少教員経験のあるオバちゃん先生の私が、率先して提案していくのも大事な、という思いから、私が学級担任をしているときは、「荒馬」や「花笠」の民舞を演目にしてきた。

2. 荒馬のハードルの高さ

とは言え、やるとなったらいろいろと面倒な「民舞」。特に荒馬は衣装づくりが大変で、しかも隊形や踊りの内容など、全てを教員がカスタマイズしていかないといけないので、かなり覚悟がいる。よく聞くのが、相担の先生方から拒否されてできなかった、という声だが、そんなこと考えていたら、いつまで経ってもできないので、やると決めたら全部自分がするっ、という勢いで実行することをお勧めします！

私は現に民舞をやるときは、「全部私がやるから、運動会は荒馬（花笠）をやらせてください」と宣言している。そして、早々に衣装づくりから踊りの練習のスケジュールまでの計画表を出し、ある程度のめどを立て、説明するようにしている。そうすると、なんかや言っても先生はやっぱり先生で、最初は渋っていても、子ども達にこんなことをやりたいなど、いろいろ思いが湧いてきて、私に提案してくれたり、気づいたらみんな熱血先生になっている。前述したが、同志会員でない先生方は、大方民舞というものを知らない。知っていても「南中ソーラン」ぐらいである。そのため、「なんかよく分からなくて大変そう」という印象から、最初に引いてしまっていることが大半じゃないかと思われる。

3. 実践の流れ

①衣装（スカート）づくり→保護者を交えて

夏休み中に

- ②馬作り→子ども達 馬の型は夏休み中に各家庭で作ってきてもらう
色塗りや組み立ては図工の時間に
- ③仕上げ作業→竹通しなどは9月の授業参観の際に親子で製作
手綱・しっぽは子ども達
- ④踊りの練習

4. 荒馬の魅力

- ①昔から踊り継がれてきたという揺るぎない安定感。

民舞自体に文化や歴史が裏打ちされているため、踊るだけで即教材になり得る。また、他教科とも関連付けて学習しやすく、総合学習などで、どのようにでも学びを広げられる。

例えば、以前受けもった4年生では、丁度その年が東日本大震災の年だったため、1学期に東北の被害状況などの調べ学習と班別の報告会をした。そして2学期の運動会では、東北で犠牲になった方々への鎮魂の踊りを捧げる、ということを名目に子ども達の気持ちを高めていくことができた。

- ②教師の意図を取り入れやすい

上記の4年生の実践にもあるように、この演目で子ども達に何を伝えたいのか、などの教師の意図を取り入れやすいという点がある。東北の歴史に焦点を当てたり、踊り方について考えさせたり、太鼓などの楽器や日本古来のリズムに注目したり・・・活用方法は無限にある。ただ、そうするためには、年度当初から学習計画を明確にし、担任団で共通認識しておく必要がある。

- ③年齢によって、難易度を変えられる

荒馬は前述のように、隊形から踊りの種類や踊りの順序まで、全てを教師が一から計画

していかなければならない演目である。だが逆に言えば、学年によって隊形を複雑にしたり、難しい踊りを組み合わせたりして、あるいは踊りの種類を少なくしてパターン化し、隊形移動しても、その踊りを繰り返す簡単バージョンなど、お囃子は同じなのに、全く違う演目にする事ができる。

余談だが、私の勤務する市では、5年生が南中ソーランを踊る学校が多いのだが、全く同じ踊りを毎年毎年踊っているし、変えるといっても、隊形や始まりと終わりに変化をつけるくらいしかできない。それならいっそのこと荒馬にして、毎年違う趣向を凝らすのはどうか、と思ったりしている。

- ④衣装による「特別感」の演出ができる

やっぱり荒馬は衣装が命！これは3回作ってきた経験からも大きな声で言えることだ。馬は同じ型を使っているが、色を各自で塗らせるだけでも個性的になるし、時間があれば一から馬を描かせるのもいいな、と思う。他校では、馬の衣装（布）を絞り染めしたところもあり、衣装に関しても可能性が無限に広がる。世界に一つだけの衣装を着て、「お祭り感満載」・「馬になりきって」踊る。これが荒馬の醍醐味だと思う。

5. やっぱりこだわりたいこと

そしてできればもう一つハードルを上げると、子ども達の衣装をおうちの人を作る、ということができればいいなと思う。衣装づくりがネックとなることが多い荒馬は、馬を他校から借りたり、縫わずに簡易に作ったりと、なんとか工面している現状がある。もちろん、「馬ありの荒馬」にこだわった行動であるので、思いは非常に理解できる。ただ、それでもやっぱり私は、「衣装を作る」ということにこだわりたい。運動会の衣装を業者が売って

いるもので済まず風潮があるご時世であるからこそ、あえて保護者に作ってもらおうという大きい枠での教育的活動をしたい。そして大変面倒なことなのだが、それでもやはりこんなことが学校と保護者をグッと近づける大切なツールじゃないかと思っている。これは3回作ってきて実感していることである。

以前ある保護者から、衣装づくりの最中に、「子どもをこの学校に通わせてきたけど、親がこんな活動するの、初めてです」と面と向かって言われたことがあった。このお母さんは、歳が随分離れた子が上に二人いて、私の勤務校へ子どもを通わせるのは今回で三人目。ベテランお母さんである。そんなお母さんからのこの発言で、最初はクレームか！？と、ちょっとドキッとしたのだが、よく聞くと、今までは学校のことは学校がやってくれる、というのが当たり前になっていたが、今回衣装作りに関わることができて、なんだか単純に嬉しい。ということだった。また別の保護者からは、〇〇ちゃんの衣装を縫ったが（小さい子用のだったので、誰が着ているか分かった）、破れないかドキドキして見ていた。などなど、教師と保護者が共に育てている感覚や、自分の子だけでなくみんなで育てているという感覚が、保護者や教師自身にも感じることができ、改めて「運動会」という行事の存在の重さや、「学校」とは何なのか、ということまで深く考えさせれる出来事だった。そういう意味でも、私はこれからも「衣装を作る」にこだわっていこう。

衣装づくりに関しては、他校では、保護者が集まって縫うのではなく、ミシン縫いができるか事前にアンケートを取り、得意な人に多めに縫ってもらい、どうしても無理な人は免除するなど、いろいろやり方があるので、本気でやろうと思えばそこまでハードルは高くない。

6. 小学生に「荒馬」をどこまで教えるのか

同志会では、東北など、その土地で長らく伝承されてきた民舞のルーツを重視して、踊り方なども現地に沿った細かい指導をしようとする傾向がある。ただ、私はこういう点に対して、正直なところ、理解はできるが現実的には難しいと感じている。同志会が運動文化を大事にしてる団体であるため、そこを重要視していることは理解できる。ただ、低学年・中学年で実践してきた私の経験から言うと、荒馬の中で言われる「足首の向き」のような細かいことは、日本人の気質のようなどころまで理解しないと踊れないことで、それを小学生に理解させるのは難しい。今まで幼稚園・保育園・小学校低学年中心に踊られてきたことから、荒馬は比較的「簡単な踊り」の枠組にされてきている。それなのに、足の向きなど、非常に難しい点を指導するのはなんだか矛盾している気がする。そのため、私は子ども達には、上記の細かい指導はしていない。

7. 荒馬は簡単な踊りなのか

私は、今までに3回荒馬を実践してきた(2年生→4年生→1年生)。その中で一番難しいと感じたのは断トツで1年生である。まず、言葉が通じない。左右さえ分かっていない。いつもなんだかとってもハイテンションで、こちらの言うことを半分も聞いていない。じっとしていない……。その前は4年生での実践だったのだが、それが結構自分の思い描いていたようにできたので、満を持して1年生でも取り組んだのだが、全く歯が立たなかった。そこで思考を変えて、「昔の人達に思いを馳せて、大地を踏みしめて……」みたいな壮大なことは封印し、とにかく「楽しく」「みんなであつに」を目標にシフトチェンジ

した。そのため、最初に考えていた隊形や踊りの種類を大幅に変更し、同じ動きを繰り返したり、隊形もオーソドックスなものにした。またペア学習は、そもそも「教え合いながら自分の学びを深める」という学習を知らない子ども達には不可能で、早々にやめた。ただ、それでもやはり「出来栄え」が気になる訳で、できないことにイライラしたり、がっかりしている自分がいた。

6章でも述べたが、民舞を教えるには、まずその土地の風土などをじっくり教えないと、踊り自体がもっている雰囲気などの空気感を、踊り手がかめない。今回1年生で実践する上で、事前に現地の踊りをビデオで見せたりして、少しは伝えたつもりだったが、今思えば、大事なところをしっかりとおさえられていなかった。見た感じは元気な子犬。ワンワン走っていて馬ではないし、荒れ狂ってもいない……。そんな荒馬が出来上がった。それでいいんじゃない？と言われればそれまでなのだが、荒馬という「民舞」を教える以上、犬になってはいけないな、と改めて思う。空気感を理解して、踊り込むことをしないと、民舞を踊る意味がないのだ。そういう意味でも、荒馬はとても難しい踊りである。

8. 夢の6年生での荒馬

6, 7章で私は、小学生に荒馬の細かい動きを理解させるのは難しいし、踊り自体、低学年では難しいと書いた。そこでこの際、6年生でじっくり実践してみるのはいかがでしょうかと思っている。近年、組体操の禁止などが言われるようになった。6年生の団演というイメージ自体をゴッソリ考え直さなければならない時期に来ている。そこで、総合学習なども含めて、じっくり取り組める民舞が良いのではないかと考えている。自分のエネルギーを思い

っきり踊りにぶつけることができるのは、やはり日本人はヒップホップのダンスではなく、民舞なのだと思う。思春期に差し掛かるこの時期の子ども達にはうってつけだろう。また、ダンスを習っている子ども達は、古臭い・かっこ悪いなどと引いてしまうかも知れないが、そんな子どもにこそ、民舞の良さを実感させて、思いっきり踊ってほしいなあ、と思うのである。

そして極めつけは、家庭科と関連させて、荒馬の衣装を自分で縫うなんてことまでできたらなお良し！荒馬の衣装は、直線縫いしかないなので、家庭科で作るナップザックよりも簡単に縫えてしまう。

社会科で現地の歴史や文化を学び、パソコン等で調べ学習をし、家庭科で衣装を縫い、音楽で和太鼓や篠笛、お囃子のリズムを習う。それこそ「総合的な学習」である。「夢の」と前置きしたが、今度6年生をもったら、是非実践してみたいと思っている。皆さんも新しい6年生の運動会、作ってみませんか。

9. これ、どう思いますか？

この章は、私が実践して悩んだことを、一緒に考えたり、意見交流できたりできたらと思っています。

①「かもしか跳び」

ドドドーという太鼓の音に合わせて突進してきた荒馬が、ピョーンと勢いよく跳ぶかもしか跳び。見栄え満点で、マンネリ化しやすい演目に良いスパイスを与えてくれます。もちろん現地の荒馬ではこんな踊りはないのですが、「運動会」という見せ場で踊る以上、こういう動きも取り入れていいのでは、と思っています。どう思われますか？

②「クラス踊り」

前述しましたが、1年生の実践では「教え合い」は難しかったです。そこで、各クラスがそれぞれで考えた踊りを踊る場面を入れてみることにしました。最初は踊りを考える、ということさえ難しいのでは、と思っていたのですが、いざ学級会を開いてみると、ポンポンと案が出てきて、それらを組み合わせたそれなりに面白い踊りが出来上がりました。他のクラスも、かけ声を取り入れたり、その場で踊るだけではなく、動き回るようなこともあったりして、大人では考えつかないような個性的な踊りに仕上がりました。

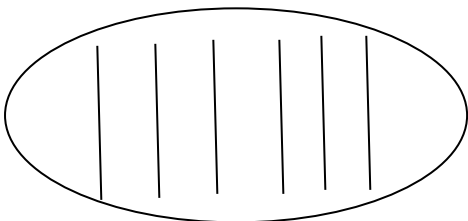
担任団としては、場面転換にもなり、良かったのではないかと、思っているのですが、ここで課題が。実は、子ども達が考え出した今回の踊りには、本来の「荒馬」にはない踊りが入っているんです。もちろん、お囃子に合った「荒馬っぽい」踊りにはなっていますが（踊りの内容に関しては、当日映像をお見せしながら説明します）、民舞は歴史を踏まえて・・・うんぬんかんぬん・・・と偉そうなことを言っていたくせに、こんな「創作ダンス」を取り入れても良いのか。

この話を深掘りすると、結局のところ、運動会の意義みたいなところに行きつきそうですが、とても大切なところですので、じっくり交流できれば、と思っています。

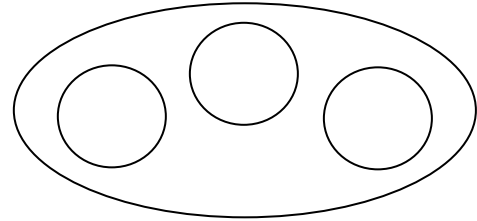
③隊形のマンネリ化

大体どこの学年でも、それどころか、どの学校でも、団演の隊形って同じような感じですよ。

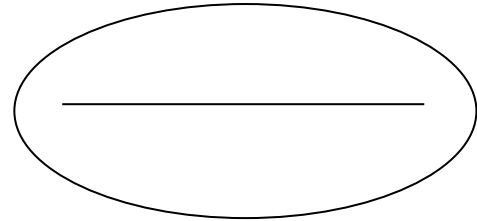
- ・まず各クラス一列で入場 二人ペアで踊る



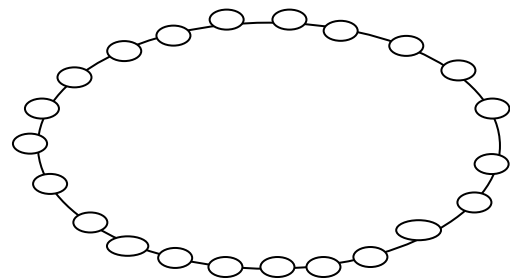
- ・各クラスごと（色ごとなど）に円になる。



- ・トラックの中央で一列になる



- ・トラック線上に一人ずつ並ぶ



などではないですか？運動会の構成上（トラックの外側に観客席がある・原則入退場門から出入りなど）、制限があるので難しいとは思いますが、何か斬新なアイデアはないかな、と毎年考え、考え疲れて、毎年同じような隊形で諦めています。新しいアイデアを皆さんと考えられたら、と思います。